

ハピネット

7552 東証1部

2017年11月10日(金)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

フィスコアナリスト

■ 2Q は増収増益達成、 ビデオゲーム事業の大幅伸長が貢献

ハピネット<7552>は10日、2018年3月期第2四半期(2017年4~9月)連結決算を発表した。売上高が前年同期比17.1%増の848.27億円、営業利益が同108.6%増の17.61億円、経常利益が同121.1%増の16.40億円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同217.0%増の10.44億円と大幅増収増益となった。

同社は9月25日に第2四半期の業績予想の修正を発表していたが、それをさらに上回る着地となった。

玩具事業では、バンダイ商品において、9月に放送を開始した「仮面ライダービルド」や「ウルトラマンジード」関連及び女兒ホビー関連が好調に推移したものの、市場全体をけん引するに至らず、売上高は前年同期を下回った。利益面においては、販売管理費の減少などにより前年同期を上回った。

映像音楽事業では、映画「君の名は。」や自社幹事作品である映画「キセキ—あの日のソビト—」のパッケージが好調に推移し、売上高、利益面ともに前年同期を上回った。

ビデオゲーム事業では、任天堂<7974>の「Nintendo Switch」及び「スプラトゥーン2」などの関連ソフトやニンテンドー3DS・PlayStation4のソフト「ドラゴンクエストXI 過ぎ去りし時を求めて」などのヒットにより、売上高、利益面ともに前年同期を大幅に上回った。

アミューズメント事業では、カプセル玩具は駅構内や、高速道路のサービスエリアにおける期間限定販売、大型ショッピングモールでの増設など優良ロケーションの獲得により好調に推移したものの、カードゲーム商材が低調に推移したことにより、売上高は前年同期を下回った。利益面においては、ロケーションの見直しなどにより前年同期を上回った。

2018年3月期通期の連結業績予想は、売上高が前期比3.4%増の1,800億円、営業利益が同13.6%増の42億円、経常利益が同14.9%増の40億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同22.5%増の25億円とする期初計画を据え置いている。

「Nintendo Switch」は引き続き好調に推移するとみられ、また12月には同社最大の商戦期であるクリスマス商戦を迎える。通期についても上方修正となるのかどうか注目したい。

ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ